訪日外国人がITを活用して公共交通の運行情報を容易に入手できる環境の実現に向けた実証調査事業【九州・熊本】

国土交通省 観光庁

- 九州管内における訪日外国人向けの公共交通運行情報案内について、「①利用者の視点に立った情報案内となっているか」「②全モード・事業者の網羅的な情報発信となっているか」等の問題が存在している。問題・課題解決に向け、既に稼働している「九州のりものinfo.com」の実施スキームを活用し、公共交通の情報集約・一元化及び経路検索事業者等と協働した実証実験を行うことで、ITを活用した運行情報充実のための方策を検討した。

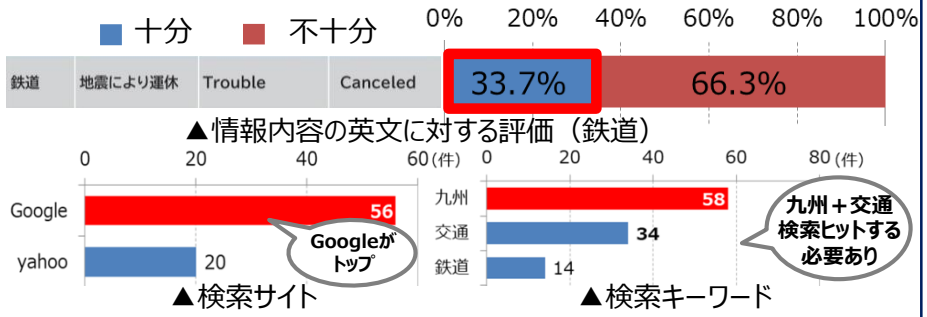
事業実施地域における背景・課題

【広域的背景】：外国人観光客が旅行中に困ったことに「目的地までの公共交通による経路情報の入手」と回答多数。
【地域的課題】「九州のりものinfo.com」は、九州全体の公共交通機関が連携して運行情報を提供しているが多言語化していない。ため、外国人が利用できない。Google等に対応したGTFS形式データ化、オープンデータ化に対応していない。

効果検証・事業評価

【効果検証①：外国人留学生モニターアンケート調査（100人）】
- 右記、実証事業で設定した英訳アラート情報に対して評価。

結果①：「自然災害＝地震・台風」は詳細情報を求める意見多数。
結果②：検索サイトは「Google」、検索キーワードは「九州」「交通」がトップ。



▲情報内容の英文に対する評価（鉄道）

▲検索サイト

▲検索キーワード

【効果検証②：熊本市内フィールドワーク調査】
- 右記、webシステム・デモ版を使用し、外国人モニターに実体験を通して評価。

結果①：「○▲×」のアイコン評価は高い。「○＝青」「×＝赤」が見やすい。
結果②：「企業ロゴ」を入れ、「情報」と「現場」の整合、わかりやすさに配慮。
結果③：漢字＋ひらがな＋英語で検索ヒットしない。現場でQRコード等周知。

次年度以降の取組

- 本事業で構築した、情報提供システム・デモ版を改修し、実運用を行う。
- GTFS形式データ化、オープンデータ化等の「二次利用」については継続検討。
- システム維持管理費等の収益スキーム等を検討し、自立した運営を行う。

事業概要

・事業主体
訪日外国人向け運行情報発信の充実に向けた研究会

・実施期間
2019.7.~2020.3
・実証期間
2020.1.27-2.29

・取組概要

①研究会の運営
有識者、専門家、交通事業者による「研究会」で外国人向けアラート情報の提供方法を検討。GTFS及びオープンデータ化の二次利用を検討。

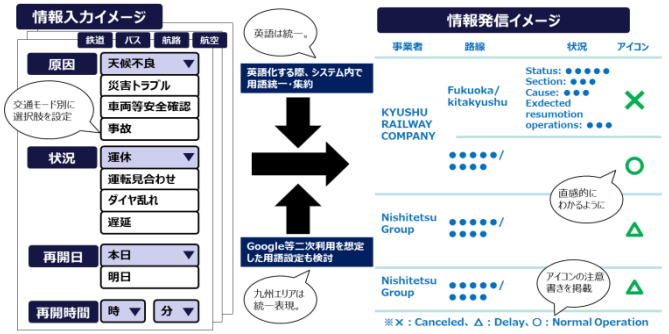
②実証システムの構築
「研究会」の意見を踏まえ実証システム・デモ版を作成。デモ版を用いて外国人モニターによる効果検証を実施。

③効果検証を踏まえたシステム改修の実施
外国人モニターによる効果検証結果を基に、実証システムの更新を実施。最終システムの構築し、テスト運用、システムチェックを行い、次年度以降の実運用に向けた準備を行った。また、GTFS及びオープンデータ化に向けたシステム構築検討を行った。

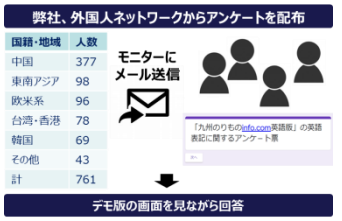
①研究会の運営（3回）

研究会メンバー構成
・有識者・専門家
東京大学：伊藤先生
九州産業大学：稲永先生
㈱トラフィックブレイン：太田氏
ヴァル研究所：諸星氏
・交通事業者
・観光関係機関　他

②実証システムの構築・検証



【効果検証①】
外国人留学生モニター



【効果検証②】
熊本県内フィールドワーク

③効果検証を踏まえたシステム改修の実施